南紀生物，53(1): 78，2011

和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa*（サガリバナ科）の果実

久保田　信*

Shin KUBOTA: A fruit of *Barringtonia racemosa* (Lecythidaceae) that washed ashore at a coast of Wakayama Prefecture, Japan

サガリバナ *Barringtonia racemosa* (L.) SPRENG.（サガリバナ科）は，高さ15 mにも達する常緑の高木で，東南アジア一帯および南太平洋西部の熱帯・亜熱帯に分布し，日本では徳之島以南の南西諸島のマングローブ後背地や川沿いの湿地に自生・生育する（中西，1999，2008）。サガリバナの花は暖季の夜間に，葉腋から長さ50 cm近い総状花序が垂れ下がるように開く。果実は四角っぽい卵形で，長さは4～9 cm程度。南西諸島以北の日本各地への本種の果実の漂着は，これまで福岡県と山口県および鹿児島県や静岡県の海岸で記録されているのみで，同属のゴバンノアシ *B. asiatica* (L.) KURZの漂着例（久保田ほか，1999; 土永，2010）と比べて僅少である（中西，1999，2008）。今回，和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の通称“北浜”へ，2010年10月9日に本種の果実が漂着したので，和歌山県沿岸および紀伊半島沿岸からの初記録として報告する。

今回漂着したのは1個の果実で，その長さは55 mmであり小型であった（図1）。本種の果実は，熱帯域の諸外国ではわが国産の果実の倍くらいの大きさになることから（中西，2008），南西諸島産のものが当地まで漂流し流れ着いた可能性が高い。なお，この果実の3箇所に，付着後間もない小さなエボシガイ類が，複数個体見られた（図1）。

引用文献

久保田　信・田名瀬英朋・樫山嘉郎. 1999：和歌山県田辺湾に漂着したゴバンノアシ（サガリバナ目，サガリバナ科）の果実. 南紀生物，41（2），129-130.

土永 浩史. 2010：串本町稲村崎海岸漂着のゴバンノアシ果実. くろしお，(29)，18.

中西弘樹. 1999：漂着物学入門—黒潮のメッセージを読む，216 pp. 平凡社，東京.

————. 2008：海から来た植物，319 pp. 八坂書房，東京.

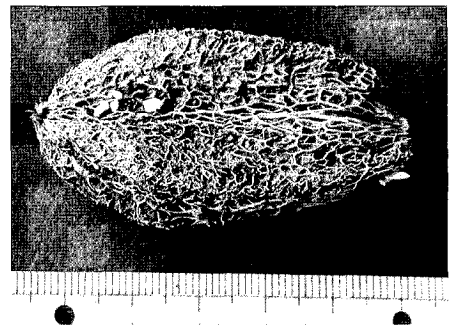

図1　和歌山県白浜町沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* の果実

Fig. 1. A fruit of *Barringtonia racemosa* (Lecythidaceae) that washed ashore at a coast of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459　京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho 459, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan.　e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp